

2024 年度 株式会社ジェイコム九州北九州局 放送番組審議会 議事録

【開催日時】 2025 年 2 月 26 日（水） 13 時 00 分～14 時 30 分
【場 所】 株式会社ジェイコム九州北九州局 大会議室
【出 席 者】 放送番組審議会委員：6 名中 6 名出席 ※敬称略・順不同

《会長》

相本 倫子（株式会社西日本新聞社 執行役員 北九州本社代表）

《委員》

仲道 辰郎（株式会社ゼンリンウェルサポート 代表取締役社長）

梯 輝元（魚町商店街振興組合 理事長）

久保山 雅彦（公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長）

中尾 基（国立大学法人九州工業大学 工学研究院 教授 博士）

福岡 佐知子（株式会社三角形 代表取締役）

放送番組審議会事務局：7 名出席

上村 忠 （株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長）

上田 康夫 （株式会社ジェイコム九州 北九州局長）

河野 なぎさ （株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部）

奥村 哲 （株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部）

篠原 有 （JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ リージョナルマネージャー）

加藤 誠 （JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ 北九州・下関拠点長）

今石 珠貴 （JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ 北九州・下関チーム）



【開 会】

■開会挨拶

株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長

■事務局より

委員 6 名のうち 6 名出席につき、放送番組審議会規程第 4 条に基づき当会は成立

■会長挨拶

相本 倫子さん

■議事進行（相本会長）

各委員の任期は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 1 年間

今回の審議会では、同期間の放送番組を審議する

■委員挨拶

仲道 辰郎さん、梯 輝元さん、久保山 雅彦さん、中尾 基さん、福岡 佐知子さん

■自主制作番組制作方針説明（事務局）

2024 年度の方針説明を実施

- ① 地域戦略に資するコンテンツ強化
- ② 放送を補完するデジタル配信の活用
- ③ コンプライアンス遵守の徹底

■2024年度自主制作番組実績（事務局）

主なレギュラー番組、特別番組について説明を実施

■2024年度自主制作番組に対する質疑応答

委 員：

テレビの大画面化・高機能化で（美しい映像を楽しめる）「花火中継」や「絶景九州」は時代にあったコンテンツだと感じた。安心安全のコンテンツは、他地域でどのような取り組みをおこなっているのかなど、情報収集のきっかけになった。イベント予告などを放送していただけるとより有益なチャンネルになるのではないかと思った。

事務局：

「ジモトトピックス」番組内でイベント告知を行っている。イベントに行きたくなる告知を今後も反映させていきたい。

■番組審議「ジモトトピックス 北九州」

《番組視聴》ジモトトピックス 北九州（2024年8月17日放送分）

委 員：

一般の人がテレビに出演できる良い機会になっている。参加するテレビとしてよい。

取材した映像はどのくらい使っているのか知りたい。取材をうけてカットされると残念に思う人もいるのではないかと思う。

事務局：

撮影したイベントは概ね番組内で使用している。（構成や時間の都合で）使用できない場合もある。

委 員：

（番組を作るうえで）情報をどれだけ持っているか、その量によって選択肢が広がるのではないかと思う。情報の収集方法と取り上げるネタの選択について伺いたい。（持ち込まれた情報なのか、情報収集の中から選ぶのかなど）

事務局：

情報の収集に関しては我々の課題と考えている。情報収集の方法として、局員から収集する場合と制作スタッフによる収集がある。その中からどのようなものを取り上げるか検討している。また、取材先との関係深め、そこから情報をいただくこともある。

委 員：

情報が入ってくる体制を作ることが大切だと思う。例えば、各地域に情報を提供してくれる協力会員制度みたいなものを作るとたくさんの地域情報が集まるのではないかと思う。情報があってこそその番組、たくさん情報が入る仕組みを作ってみてはどうか。

事務局：

情報を集めるという点に関しては、安心安全のコンテンツではサポーター制度を設け、定期的に情報が集まる仕組みを作っている。

委 員：

子どもたちがたくさん出ていたなと感じた。「見るテレビから出るテレビへ」というキーワードどおりに制作されているという印象を持った。バレーボールの番組、カノアラウレアーズの本拠地は北九州市ではないと思うが、エリア外の話題も取り上げるのか？

事務局：

基本的にはエリア内のものを取材する。今回は北九州市での開催で、地域の人たちが会場で観戦するなど関心の高いイベントだったので、（エリア外のチームではあるが）今回制作放送にチャレンジした。

委 員：

テレビ番組を見逃すことがある。地域情報アプリ「ど・ろーかる」の告知を見かけることが少ないように感じるが、告知はやっているのか？

事務局：

番組と番組のあいだで告知しているが、回数が少ないのかもしれない。認知されるよう放送回数を増やすなど改善していきたい。また、インターネット上で露出を増やすなどし、認知を高めたい。ご意見を参考にさせていただく。

委 員：

双方向性が足りないように感じる。JCOM（北九州）のXを見たが「いいね」、「ビュー」、「コメント」も少ない。見ている人の意見を取り入れながら番組を作るとよいのではないか。SNSの数字をあげるには、見ている人が関心をもつような「仕掛け」が必要。

事務局：

番組を宣伝するだけの投稿は「いいね」や「リポスト」は少ない。番宣にはなっていると考えているが、SNSに関しては課題と感じている。取材日程が決まった後、事前取材日を告知する等の工夫も検討する。

委 員：

短い編集ではなく、時間を使って空気感まで伝えている。結果だけでなく過程も伝えていると感じる。

事務局：

今後も、結果だけでなく過程の部分も含め伝えられるように努めていきたい。

委 員：

1つ1つの話題が丁寧に取材され、過程もわかり、イベントの空気感が伝わってくる。民放のような短いニュースではなく、しっかりと時間をとった放送内容になっており、ケーブルテレビオリジナルでよい。今後も丁寧な取材をしていただきたい。

事務局：

引き続き、丁寧な番組づくりに取り組んでいきたい。

委 員：

キッズリポーターが出演するニュースがあったが、出演者の選定方法を教えてほしい。出演した子どもたちの男女比率をもう少し近づけたほうがよいのではないかと思った。

事務局：

キッズリポーターの選定については、イベント主催者が募集し決定したもの。今後このような企画を行う際は、男女比など意識して制作にあたりたい。

委員：

子どもたちがたくさん出ていていいなと感じた。地域の祭りを取り上げてもらいたい。現在、社会状況の変化などで若者（子どもたち）への祭りの継承・伝承が難しくなっている。また、祭りの開催自体が難しい地域もでてきている。そのようなところをクローズアップしてもらい、地域の伝統行事の継承を後押ししてもらえる取材をしていただければと思う。

事務局：

祭り継承に取り組む人物にスポットを当てた番組や地域に役立つ番組を引き続き制作放送していきたい。

委員：

番組は10本前後の話題で構成されているが、この10本前後の話題を放送するにあたり、コンセプトは設定しているのか？

事務局：

テーマを設けて構成していきたいと考えている。事前に打ち合わせながらすすめている。色々なトピックスが集まるため、テーマを設けての構成ができず、アラカルトになることも多い。市民の関心が高い話題や情報を冒頭にもっていくなど視聴者を引き付け、見てもらえるよう毎回構成を考え制作している。

事務局：

ケーブルテレビがどこに位置するのか、民放キー局は広域、地方民放局は中域、ケーブルテレビは狭域。視聴率のほか、SNSなど、番組の視聴に対する評価には、いろいろな指標がある。視聴が少ないので取材しない、番組を作らないということではなく、民放が取り扱わないものをたくさん取り上げる。それにより、地元との良好な関係が作られている。できる限り、効率よく番組を制作放送していきたい。

■閉会挨拶

株式会社ジェイコム九州北九州局 上田局長



以 上